

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価（3月27日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①確かな学力の育成と、生徒が課題を発見し解決に向けて主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせるカリキュラムマネジメントを行う。 ②デジタル社会で求められる力を身に付け、文理横断的・探究的な学びを充実させ、生涯にわたり挑戦し学び続ける力の基礎を培う。	①基礎的な知識や技能の定着を図るとともに、自らが課題を発見し、それを解決しようとする姿勢を育む。自習室やフォローアップ週間等の活用を促し、生徒自らが学習に取り組みやすい環境の構築を進める。 ②様々なICTの活用や適切なデータ処理の知識・技能を身に付け、探究的な学びを充実させる基礎を培う。	①各教科科目の授業において、基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、自ら課題を発見する力を育めるような授業実践に取り組む。フォローアップ週間の在り方等を検討し、より効果の高い形での実施を検討する。 ②総合的な探究の時間で、場面に応じて適切にICTの活用やデータ処理が行える知識・技能を身に付けさせる。	①生徒による授業評価アンケートにおいて、知識・技能が身に付いたという回答の割合が増加したか。フォローアップ週間をより効果の高い形で実施することができたか。 ②生徒による授業評価アンケートにおいて、必要な知識・技能が身に付いたと回答する割合が増加したか。	①「問いづくり」をテーマに組織的な授業改善を行い課題発見力の育成に取り組むことができた。フォローアップ週間には、試験対策プリントの設置等で主体的に学習する環境を整えた。 ②総合的な探究の時間を中心に各教科で、生成AIの活用やデータ処理を題材に授業を実施した。	①フォローアップ週間の試験対策講座への参加人数が少なく、教科の偏りもある。周知方法等、実施体制を引き続き検討する。 ②ICT等を授業内だけでなく、生徒の主体的な探究活動へ生かせるよう、活用の部分をさらに強化した授業を検討する。	①「問いづくり」の取組が生徒の課題発見に対する意欲向上につながっている。 ②授業評価の観点を深める工夫がほしい。 ③授業評価の中で低い評価結果について分析し改善を図ってほしい。	①「問いづくり」をテーマに1年間取組んだ。職員研修を実施し指導方法等の理解を深めた。生徒による授業評価に成果を見ることができる。生徒の探究活動のプロセスをさらに深める取組を行っていく。 ②授業評価結果の分析と改善の手立てを進める。	①引き続き、「問いづくり」を主軸に授業改善を図り、生徒の探究的な思考力の育成を図る。 ①「理数探究基礎」の設置準備を進める。 ②タブレット端末の有効活用をさらに進める。 ③授業評価結果を授業改善にさらに反映する。
2	生徒指導・ 支援	①誠実で良識ある有為な人材の育成をめざし、自他の人格や個性を尊重する協調性を涵養する。 ②生徒に寄り添い心身ともに健康な生活が送れるように支援を行う。 ③部活動や学校行事等を通じて、生徒が主体的に関わりをもち、他者との協働する力を育み、達成感や自己肯定感の醸成となる指導・助言を行う。	①登下校時を含め西高生としての行動やマナーについて、生徒自身で考え、行動できるよう意識を涵養する ②教育相談体制を充実し、生徒に情報を提示していく。また、個に応じた支援体制を整備するとともに、安全で安心な学校生活を送れる環境作りに努める。 ③部活動や学校行事等の全ての学校活動において、主体的に行動できる生徒を育成し、支援する。	①服装、自転車や公共交通機関でのマナー、SNSの使い方等について段階的かつ継続的な指導を行う。 ②職員間の情報共有を適切に行い、生徒とのコミュニケーションの充実に努める。また、学校生活におけるアンケート結果を共有し、適切な支援方針を打ち出していく。 ③生徒会本部役員会や部長会、委員会等を定期的に開催し、各クラスや生徒の意見を吸い上げ、生徒の主体的な活動を支援する	①登下校時等の服装や行動を中心に指導件数が減少し、地域社会の一員としての規範意識が育まれたか。 ②コーディネーター会議を開催し、情報と方針の共有ができたか。また、学校生活におけるアンケートから適切な対応ができたか。 ③学校行事後等にアンケートを実施し、生徒が満足できる学校生活を過ごしているか。	①各クラスにおける声掛けや集会等での周知、また、生徒会生徒による声掛け等で生徒の規範意識を高めることができた。 ②生徒情報共有会を開くなど、生徒それぞれの支援体制を考えることができた。また、学校生活に関するアンケートを適切に利用することができた。 ③生徒会本部役員会や部長会、委員会等を定期的に開催し、生徒の主体的な活動を支援する体制が整った。	①生徒が主体的に考え行動ができるよう支援していく。生徒間で指摘し合う環境が必要である。 ②カウンセリングに抵抗感がある生徒がいる。気軽にカウンセリングを受けられる体制作りが必要である。 ③学校行事のアンケートでは多くの生徒から肯定的な回答を得ることができた。今後は行事だけでなく学校生活に関する調査も検討したい。	①生徒間での主体的行動が成果として見ることができる。 ②生徒情報共有会等、組織的できめ細かな生徒支援体制が構築されている。 ③生徒会役員を中心に行事等が盛んである。引き続き、生徒の主体性の伸張に期待する。	①学校生活のマナー向上に対する生徒の意識が高まった。 ②生徒情報の把握と支援策への対応について、組織的に取り組むことができた。 ③生徒が主体的に行事運営に関わり、自己達成感や自己肯定感を育むことができた。	①生徒の自主自律の精神をさらに涵養し主体的行動につながるよう支援していく。 ②生徒情報共有会やSC、SSWとの連携等、生徒の情報を適切に把握する。 ②カウンセリングへの抵抗感を軽減するための方策を検討する。 ③学校生活へのアンケート等、生徒の実態把握に資する取組を検討する。
3	進路指導・ 支援	①生徒が自らの生き方について主体的に考え、多様な選択肢の中から将来の道を切り拓けるキャリア教育を行う。 ②社会の一員として、自己肯定感をもって社会で活躍できる人材を育み、卒業後のビジョンを明確にする。	①幅広く経験を積み、自らの可能性を広げ、高い目標を設定できるようにするとともに、課題を発見し、解決に向けて取り組む力を育成し、自分自身のキャリアにつなげる。 ②社会との関わりを意識させ、他者と協働しながら学びあう態度と生涯にわたり挑戦し続ける力を育み、社会で活躍できる人材育成に努める。	①学校内外の活動等においてキャリア教育を計画し、生涯学習につながる活動にするとともに、進路実現に向け目指すべき自己像を常に意識させ、高い目標が設定できるようにする。 ②進路ガイダンス等で、キャリア教育について主体的に考え、取り組める体験の充実を図り、キャリアパスポート等で目標設定・振り返りを行う。	①様々な学校内外で培った主体的な学びが、進路実現の活動に活かされ、高い目標設定における進路実現ができたか。また、課題を発見し、解決に向けて計画・行動できたか。 ②進路ガイダンスやキャリアパスポートによる振り返りの中で、自己分析し、次のステップへの蓄積ができたか。また、蓄積した内容を次の活動につなげることができたか。	①学校内外の様々な機会を捉え、生徒の主体的な学びにより自分自身の進路実現に高い目標を設定することができた。発見した課題の解決に向けて行動することができた。 ②様々な活動の振り返りを行うなかで自己分析し、蓄積した内容を次のステップに活かすことができた。	①目標設定で終わることなく、日頃から進路実現の意識を高く維持できるよう、キャリア教育を計画する。 ②キャリアパスポート等に蓄積したこれまでの経験を自己分析し深めていくことで、人生設計と関連付けできるようにする。	①取組の成果が進路結果に見ることができる。引き続き、生徒の自立的なキャリア設計力の育成を期待する。 ②キャリアパスポートを自己の振り返りや進路実現に活用している。	①外部模試等のデータを進路計画に活用し自己分析やキャリア意識への働きかけとした。 ①ガイダンス等を通じて自己実現の目標設定の一助とした。オープンキャンパス等、幅広い進路活動を充実したい。	①目先の課題に執着せず、将来の自分像を見据えた目標設定と自己実現の機会を積み重ねたい。 ①進路実現のための情報収集を、生徒自らが考え行動できるよう働き掛けたい。 ②キャリアパスポートの計画的有効活用を模索する。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価（3月27日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①地域での学校の役割を意識し、地域との連携・協働を深め、地域のニーズに応え、地域の活性化に貢献できる開かれた学校づくりに取り組む。	①学校コミュニティをつくるため、地域活動を積極的に行う。 ②生徒や保護者、地域のニーズに応じて学校の情報をより多く発信・伝達し、より良い学校づくりを行う。	①地域との連携・協力を積極的にいき、地域との関係性を、より良い学校づくりへ活かす。学校行事等、地域との交流の機会となるよう、開かれた学校づくりを進める。 ②I C T機器や情報伝達アプリを活用して、生徒や保護者への速やかな情報伝達に努める。ホームページの更新回数を増やし、内容・レイアウトの工夫・改善を行い、発信していく。 ②-2 地域貢献デー、遊 ing 西高等に多くの生徒が主体的に参加し、地域との交流の機会とする。	①地域との交流の機会を実施できたか。参加人数や活動場所が増加したか。保護者・地域から寄せられた情報・意見により学校運営が改善されたか。 ②-1 生徒・保護者への適切な情報提供を行うことができたか。ホームページ更新回数とともに内容の充実が見られたか。 ②-2 地域貢献デーを計画通り実施できたか。遊 ing 西高を生徒の主体的な計画で実施できたか。多くの参加者があったか。	①地域貢献デーや文化祭などで地域の方と接する機会とした。具体的な参加人数を把握していないが行事で来校する保護者が増加傾向にある。 ②-1 I C T機器の整備状況はある程度改善できた。ホームページ更新回数は昨年から増えることはなかった。 ②-2 地域貢献デー、遊 ing 西高に多くの生徒が参加し、地域との交流ができた。 ②-2 地域貢献デーを湘南大庭地区生活環境協議会と協働実施した。	①引き続き、地域の方と交流できる機会をもち、交流人数の増加をめざしていく。 ②-1 整備機器の修理や交換に目を配りながら管理する。ホームページの更新回数を増やす。 ②-2 地域との行事に引き続き生徒が積極的に参加できるように計画する。 ②-2 地域貢献デーの地域との協働実施を、今後とも継続していく。	①地域の学校として期待する。評価観点に数値目標等、より具体的な視点がほしい。 ②-1 ホームページ更新は、月単位・週単位等、ルーチンとすることを期待する。 ②-2 地域貢献デー、遊 ing 西高とも生徒が率先して運営に関わっている。	①地域と連携した事業を引き続き継続していく。生徒の参画意識がさらに高まるよう企画運営に工夫する。 ②-1 ホームページの内容、更新等、充実を図る。 ②-2 地域貢献デー、遊 ing 西高等、例年通り実施できた。さらに内容等の工夫を図っていく。	①引き続き、地域、保護者に開かれた学校を目指す。アンケート等で来校者の声を聴くなど、外部意見の活用を検討する。 ②-1 ホームページ運営方法を明確にし、組織的な取組とする。 ②-1 S N Sを活用した情報発信について検討する。 ②-2 地域貢献デーで地域協働に対して具体的な提言を検討する。
5	学校管理 学校運営	①生活全般の安全意識を高め、自らの命を自ら守る防災意識を育む。 ②豊かな心を育む環境整備に努める。 ③I C T利活用のインフラや新たなコンテンツ導入を中心とした整備を行う。	①学校全体で防災意識を高める指導を行い、災害時に備えて準備を進める。 ②校内や校舎周辺の環境の整備・美化について、保護者と連携しながら生徒の意識を高め、学校を大切にすることを育む。 ③グループ業務、教科等、学校教育活動の中で、さらにI C Tの利活用を進め、効果的活用例を検討する等、より具体的で、組織的な取組とする。	①年2回の防災訓練を通して、自らの命を守る行動や社会に貢献する態度の自助・共助・公助の考え方を育てる。 ②P T Aの協力を得て校内外の環境整備に努めることや、生徒環境整備委員の清掃点検や職員による清掃への呼びかけ・点検を実行し、日頃の環境美化意識を醸成する。 ③I C T利活用を継続発展させていくため、さらに活用しやすい通信環境、備品の整備を行う。	①防災計画に基づいて、実践的な防災訓練を実施し、生徒や職員の防災意識が高まったか。 ②P T A環境整備委員会との連携を取ることができたか。また、生徒環境整備委員や職員の働きかけにより、校内各箇所が適切に清掃され環境美化意識が醸成されたか。 ③通信環境の改善や新たなI C T利活用が見られたか。	①避難訓練を授業中に被災する設定で行った。より現実的とすることで生徒の意識変化啓発を図った。荒天のため2回目の訓練は注意とした。 ②P T A環境整備員と連携を図り、校内外の美化に努めることができた。生徒環境整備委員による校内点検、清掃の実施も行った。 ③電子黒板の機能を活用した授業実施や行事で活用することができた。	①集合型避難訓練の他、D I G訓練等、さまざまな形態の防災研修の機会を検討する。自助・共助・公助の意識を高める訓練形態を計画する。 ②P T A環境整備委員と生徒環境整備委員の連携を今後とも確認し実施していく。 ③電子黒板を選択教室や特別教室にも設置し、より一層の活用を考えていく。今後、授業、校務等、多くの場面で教育効果のあるI C T利活用を積極的に取り組んでいく。	①様々な形態での防災意識の啓発の取組を期待する ②P T Aとの連携が非常に良い。学校生活環境の質の向上につながっている。 ②同窓会とも人材活用等、連携を密に図りたい。 ③電子黒板やタブレット等、今後I C T機器を活用した授業がさらに必要となる。職員研修等で効果的な活用を研究してほしい。	①様々な形態の防災訓練を計画できた。消防署との連携を継続していく。 ②P T Aと生徒との協働作業を実施できた。環境美化の視点をさらに広げたい ③電子黒板を効果的に活用できた。授業以外の活用も考えていく。 ③授業用タブレット端末を授業改善に活かしていく。	①継続して自助・共助・公助の意識啓発に資する訓練を計画し、主体的に行動できる生徒の人材育成を目指す。 ②P T Aと協働した美化活動をさらに発展させる。 ③学習支援アプリの研修会を実施し職員のスキルアップを図る。 ③安定した通信環境のための手立てを検討する。